

本章の目的

Yanomamö の自然環境への適応、環境と文化の関係、村落の離合集散の過程を研究する。
→人類史における、農耕開始期と、それに伴う人口増加について考える上で重要となる。

THE PHYSICAL ENVIRONMENT

・Kaobawäの村とその立地

オリノコ川とマベカ川の合流地点。標高 450 フィート。低丘陵地だが歩行困難。

・ジャングルについて

比較的けわしい。多様なヤシ、堅木類。低日照。灌木・ツタにより移動が困難。

p46 Trails and Travel

・Yanomamö の村落 ジャングルの中に不規則・拡散的な配置をみせる。

村落間の距離 数時間から 10 日。村同士の政治的な関係による。

・trails —村落と菜園園、外部をつなぐ。

小道の痕跡は発見が困難。障害物に対して直線的。小川と交差する際の足跡や小枝の折跡といったサインは消えやすい。

「お前についていくよ、のエピソード」

・Kaobawäの村と友好的な村落を結ぶ小道について

男性一人：一日 家族：一日半 村全体：2～3日？彼らのやるきによって決まる。

「Mömariböwei-teri を訪れるエピソード」

・キャンプに使う小屋について

屋根の葉っぱを取り替える数分の作業で利用できる。立て替えたとしても 15 分。

・歩行に関する危険

とげ・着衣・靴がないため常に問題になる。

ヘビ—多くの Yanomamö がヘビに咬まれて死ぬ。遠出をするときだけでなく、菜園等
近場の移動に際しても注意される。Chagnon はスタンガンで治療。

・雨期と移動

低地が水没する、また流れが激しくなるため、3—6月の雨期の間は外部から遮断される。攻撃・訪問・交易は乾季の間に行われる。

雨期に移動しなければならない場合には、棒とツルで簡単な橋を架ける。

P48 Technology

・Yanomamö の技術：現地調達できる材料で当座の問題は解決できるが、長い時間使えるようなものではない。専門性は低く、どの村落でも自給自足が可能。Yanomamö の技術は狩猟採集民のカテゴリーに分類できる。→実際の生活は菜園での栽培が中心。

・ClayPot

Chagnon がフィールドワークに入った 1950's には一般的であったが急速に姿を消し、1970's には完全に姿を消した。→ごく少数の村で生産・使用・交換。

器壁は1インチ程度。尖底で巻き上げ技法によって作られる。装飾は行われぬ。野焼きで焼成も悪い。

・弓・弦・鏃・クラレ毒・矢筒・火切り

・Yanomamö の漁

雨期の氾濫後。また野生のつる植物から取った毒(致死性ではない)を使用。

・頭皮・ケジラミ。

p53 Halluciogenic Drugs

ジャングルにはいくつかの幻覚性の粉のもとになる植物がある。

yakowana tree 最も広く使われる。

hisiomö tree 強力で、Yanomamö がより望む薬物。広く交易されるため、hisiomö 群生地近くの村は hisiomö の交易を専門的に行う。

justicia 他の二種より効き目が弱い。

「mokohiro(筒)で ebene(幻覚剤)を鼻に吹き込む」

hisiomö の交易ルートが、戦争状態の変化によって妨げられる場合に、個人による植物の栽培の過程が観察された。

「Rerebawä が種を持ち帰るエピソード」

Yanomamö は新来の植物に対して、しばらくの間は「～から来た」とその由来を覚えているが、長い時間の内には、元々あったもののように見なす傾向がある。

→コロンブス以降に持ち込まれた plantain(主食)についてその起源の神話を持っている。

p55 Shelter

shabono 40-200 程度が暮らす。人数の増減は村落の離合集散を起こす。

少なくとも 80-100 人が分裂のために必要、との記述。

ジャングルで手に入る材料(棒・ツル・葉)で建設される。

shabono の建設は Yanomamö にとって最大の労働力集約事業である。

二年ほどで廃棄—再建。移転する場合は同盟・敵対関係を考慮。

攻撃を受ける可能性がある場合、丸太で柵をつくり防御施設化。

キャンプ中の小屋

基本的に三角形。バナナの葉で屋根を葺く。数分で完成する。

Hunting, Gathering, and Gardening

p60 Wild Foods

ジャングル内の野生食物資源は非常に多様であるが、雨期によってアクセスに制限がある。

Yanomamö は野生食物資源のみでも充分生活が可能であるが、そのためには小集団で、かつ定期的に移動する必要があるだろう。

「waiyumö ～Kaobawä の村によるキャンプ～」

鳥・豚・サル・バク・アルマジロ・アリクイ・ワニ etc

昆虫・魚・イモムシ・カニ

ヘビ(あまり食べたがらない)・カエル・ヒキガエル・ジャガー(食べる連中もいる)・カ

ピバラ(Kaobawäたちはなぜか食べない)

食物に関するタブーは Yanomamö のなかでも多様であり、さらに年齢・性別により細かく制限される例がある。

- Yanomamö の漁
釣り針・釣り糸の導入
銃・ライト・網の使用

p61 Vegetable Foods

- ヤシの芯—大量に消費

kareshi,yei,ediweshi などの種類がある。

- はちみつ—食品中最も高い価値が認められている。

蜂の巣が発見されると、すべての予定がキャンセルされ、ハチミツ採集に出る。

- イモムシ(palm-pithgrubs)

p63 Gardening

- 菜園からの収穫— Yanomamö は狩猟・採集に多くの時間を費やしているが、食料の80-90%が菜園からの収穫による。

plantain —主食

コロンブス以降に導入されたものだが、それ以前にはマニオク・トウモロコシ等、現地の作物を栽培していたと考えるのが合理的。

- 菜園の建設・移動

狩りの途中などで、菜園にふさわしい土地かどうかを判断。

- 飲料水へのアクセスは容易か。
- 幾分開けた土地であるかどうか。
- あまりに大きな立木は敬遠される。

下草狩り—立木を倒す

「steel axe について」

p65 Other GardenProducts

Manioc —アマゾン一帯でデンプン源として広く栽培されている根菜類。Yanomamö で
の栽培は小規模。有毒品種は青酸を含むため毒抜きが必要がある。デンプンを
沈殿させてパンケーキ状に調理する。キャツサバ・タピオカとも。

Ohima —タロイモ(xanthosoma)の一種。

その他 sweet potato なども広く栽培されているが、これらの根菜類はそれほど重要な位置は占めない。アボガド・パパイア・ホットペッパーなどのほうがより重要である。

非常に重要な、非食用の植物。

- 籐—狩猟・戦闘用の矢を作る。
- タバコ—噛みたばこ。男性はおろか、女性や子供までが中毒なため、最も重要な作物で

ある。

「貧しい」＝「タバコが無い」という表現がある。

交換・譲渡・使用によるタバコの不足に対して、他者から盗むという行為が行われるため、(作物の)タバコをフェンスで囲ったり、ブービートラップを仕掛けたりする。

回し噛みの習慣－ウィルス・伝染病の拡散。

・コットン－ハンモックを作る。

「Yanomamö の服装について」

・魔術的な効果を持つ作物

female charm －媚薬？

oka －ある種の粉を「吹く」ことによって遠方の敵を病・死に至らしめる呪術。

Yanomamö では不審死は敵対勢力の呪術の結果とされる。→戦争行為の原因の一つ。

p70 Slash-and-Burn Farming

主に結婚を機に、男性は自分の菜園のための土地を用意する事になる。普通彼の兄たちが近隣の土地を切り開く。父親が存命であれば、その中に作る。サイズは家族の多さと親族との関係で大体決まる。

「狭すぎる菜園の例」

・ヘッドマンの菜園

他村の饗応などのために大きい菜園を持つ傾向がある。Kaobawäの菜園は村の他のメンバーのものよりずっと大規模である。弟や妻の兄弟が労働してこれを支えている。

「Kaobawäの娘を娶る権利のある男」

・あらたに火入れした菜園に作物を植える時。

村から遠い－挿し木の厳選、作物の比率などを熟慮。

村から近い－種・挿し木の移動は簡単。

(セディーユ？付き a を a で代用しました)

ネット上で見かけた Yanomamö に関するサイトの一部。

http://www.nttdata.co.jp/link/g_journey/index_j.html

・関野吉晴氏の The Great Journey の HP。

<http://www.academicpress.com/inscight/01032002/grapha.htm>

・ACADEMIC PRESS による「ヤノマミ・スキャンダル」に関する記述。

<http://www.anth.ucsb.edu/chagnon.html>

・Chagnon サイドによる「Darkness in Eldorado」に対する反論。